

北九州

エコタウン 事業



ていたん

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

7 清潔なエネルギーを
利用する

8 働きがいも
経済成長も

9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



ブラックていたん

Kitakyushu
Eco-Town
Project

北九州エコタウン事業 ~世界の環境首都を目指して~

環境問題への積極的な取り組み

日本の近代産業の幕開けと公害問題の克服

日本の近代産業は、1901年に、国内初の本格的近代溶鉱炉を持つ官営八幡製鐵所が操業を開始した北九州市で幕を開けました。北九州工業地帯は、四大工業地帯の一つとして日本の高度成長を支えてきましたが、その一方で、1960年代に深刻な産業公害をもたらしました。

この公害問題に対して、市民・企業・自治体が一体となって取り組みました。かつては大腸菌すら棲めない「死の海」と呼ばれた洞海湾には、100種類以上の魚介類が戻ってきました。「七色の煙」と呼ばれ、日本一の降下ばいじんを記録した空は、国から「星空の街」に選定されるまでに改善され、私たちは美しい海と空を取り戻しました。



汚れた洞海湾(1960年代)



よみがえった洞海湾(現在)



煙におおわれた空(1960年代)

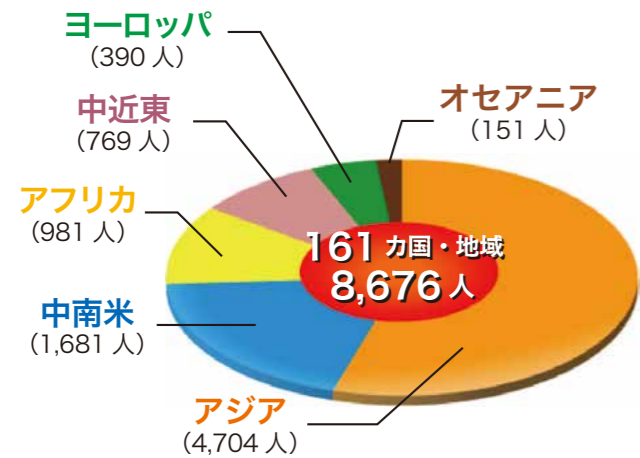


青空を取り戻した空(現在)

公害克服の経験を活かした環境国際協力

北九州市は、公害克服の過程で培った技術を開発途上国の環境改善に役立てようと、1980年代から専門家派遣や研究員受入れなどを行ってきました。また、市民・企業・自治体が一体となった環境の取り組みは、国際的にも環境改善のモデルとして高く評価されています。

■ 各地域からの研修員の受入実績(2017年3月現在)



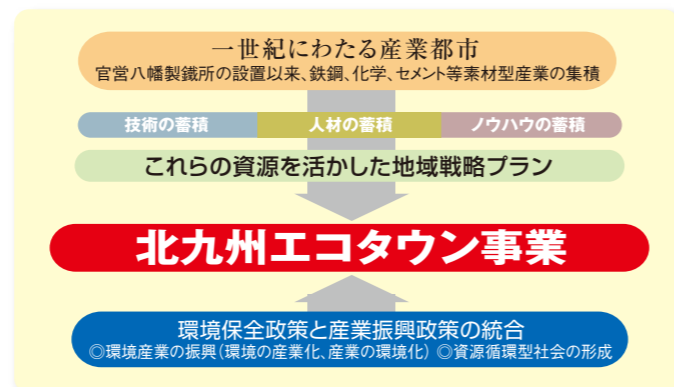
■ 国際的評価等

1990年	国連環境計画から日本の自治体では初めて「グローバル500」を受賞
1992年	リオデジャネイロで開催された国連環境開発会議(地球サミット)で「国連地方自治体表彰」を日本で唯一受賞
2000年	北九州市で、国連 ESCAP「アジア・太平洋環境大臣会議」開催
2002年	ヨハネスブルグサミットで、北九州市の地方自治体支援をモデルにした「北九州イニシアティブ」が実施計画に明記
2006年	ワンガリ・マータイ氏(ノーベル平和賞受賞者)「環境のことは北九州市に聞け」米国雑誌「TIME」、北九州市を環境改善のモデルとして紹介
2011年	経済協力開発機構(OECD)の推進するグリーンシティプログラムのグリーン成長都市として、アジアで初めて選定
2012年	スラバヤ市(インドネシア)と「環境姉妹都市提携」を締結
2014年	ハイフォン市(ベトナム)と「姉妹都市協定」を締結 プノンベン都(カンボジア)と「姉妹都市協定」を締結
2016年	北九州市で「G7北九州エネルギー大臣会合」が開催。共同声明「グローバル成長を支えるエネルギー安全保障のための北九州イニシアティブ」を採択
2017年	ダバオ市(フィリピン)と「環境姉妹都市提携」を締結

エコタウン事業

エコタウン事業は、ある産業から出るすべての廃棄物を新たに他の分野の原料として活用し、あらゆる廃棄物をゼロにすることを目指し、先進的な環境調型のまちづくりを推進することを目的として、1997年に国で創設されたものです。

北九州市は、長年にわたる「ものづくりのまち」としての産業基盤や技術力、公害克服の過程で培われた人材・技術・ノウハウ等を活かし、資源循環型社会の構築を図るため、「環境保全政策」と「産業振興」を統合した独自の地域政策として、1997年7月に国から認定を受けた後、「北九州エコタウン事業」を推進しています。



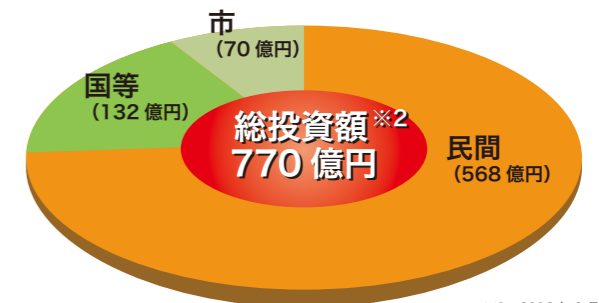
●総合的な展開(北九州方式3点セット)



エコタウン事業のこれまでの成果

各種リサイクル法に対応したもの及び独自に進出したものを合わせ、我が国最大級の事業集積

- 事業数 27事業^{※1}
- 実証研究数 60研究^{※2}(終了分を含む)
- 雇用者数 約1,000名^{※2}



※1 2018年3月時点
※2 2017年3月時点

環境ビジネス・環境経営の支援

①北九州市環境産業推進会議

環境・エネルギーに関する講演会や説明会、企業・団体交流会を主催するほか、関係団体が実施するセミナーの情報発信や、企業と研究機関の連携推進などを行い、関係団体・企業・行政によるネットワークの強化を図っています。

②北九州エコプレミアム

市内で生産されている環境配慮型製品や環境負荷低減に寄与するサービスを「北九州エコプレミアム」として選定し、広くPRを行うことにより、その販売を支援しています。

③エコアクション21

市内中小企業者等の環境への取組を促進するため、環境省が策定した環境経営システムである「エコアクション21」の認証・登録に向けた支援をしています。



北九州 エコタウン 事業エリア マップ



北九州エコタウン事業の特徴

- ①産学官の強力な連携のもと事業を進めています。
- ②既存産業集積地や学術研究都市が近接しています。
- ③広域的に廃棄物を取扱うことが可能です。
- ④エコタウン内各企業、市内のリサイクル産業、さらに区域内の管理型処分場との連携・活用により安全・確実な処理が可能です。
- ⑤情報の公開に努め、市民との双方向のリスクコミュニケーションを進めています。
- ⑥市窓口の一本化による手続きの迅速化を行っています。
- ⑦原料となる廃棄物の確保や再生品の活用を支援しています。
- ⑧環境未来技術開発助成制度により、環境分野の実証研究、社会システム研究、FS研究を支援しています。



■支援制度

環境産業融資				
資金名	利率(%) (固定金利)	返済 期間	融資限度額 (最低投資額)	保証
リーディング プロジェクト 支援資金	0.90	5年 以内	10億円 (5,000万円)	任意保証
	1.25	10年 以内		
	1.65	15年 以内		
省エネ設備・ 新エネ設備 導入資金	1.20	5年 以内	1億円 (150万円)	保証協会の 保証要 (保証料率: 0.45~1.51%) 保証協会の 対象外企業は 除く
	1.40	10年 以内		
環境配慮型 製品導入資金	1.20	5年 以内	1千万円 (100万円)	保証協会の 保証要 (保証料率: 0.45~1.51%) 保証協会の 対象外企業は 除く
	1.40	10年 以内		

研究開発に関する補助金		
名称	環境未来技術開発助成金	
対象者	①実証研究：北九州エコタウン実証研究エリア内で「実証研究」を行う者（原則） ②社会システム研究：市内に事業所（研究機関を含む）を置く企業又は市内企業と共同で主に市内で研究開発を行う者 ③FS研究：市内に事業所（研究機関を含む）を置く企業又は市内企業と共同で研究を行う市内の者	
対象事業	実証研究	廃棄物処理技術、リサイクル技術、環境保全技術、環境に配慮した製品開発技術、新エネルギー・省エネルギー技術 など
	社会システム研究	環境産業の展開において重要となる原料の確保や物品の流通など循環型経済社会及び低炭素社会の実現に向けた社会経済システムの研究開発
	FS研究	実証研究を行う前段階としての技術的内容、市場性及び経済性等の調査・研究
補助率	①市内の中小企業者等が中心となって研究を行う場合、又は市内に立地する教育研究機関が市内の中小企業者と共同して研究を行う場合（実証研究は除く）は、対象経費の2/3以内 ②上記以外は、対象経費の1/3以内	
限度額	①実証研究（事業化チャレンジ枠）：1,500万円/年（1年間） ②実証研究：1,000万円/年（最長3年間） ③社会システム・FS研究：200万円/年（1年間）	

北九州市環境局 環境未来都市推進部 環境産業推進課

〒803-8501 北九州市小倉北区城内1-1
TEL.093-582-2630 FAX.093-582-2196

ホームページ <http://www.city.kitakyushu.lg.jp/> <http://www.kitay-ecotown.com>

